

2015.4.21

「大阪都構想に断固反対」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は4月20日の月曜日です。

私はこのところ、大阪都構想について批判をしていますが、これから5月17日に大阪市での住民投票がありますので、徹底的にこの問題についてあらゆる機会を通じ、皆様にお話をしたいと思います。既に、私のもう一つの番組である週刊西田、また姉妹版である超人大陸やチャンネル桜のビデオレター等で、ずっと大阪都構想の問題点を言ってきました。私も自分のビデオレターでもう一度、改めてこの問題の問題点を言いたいと思います。

まず大事なことは、この大阪都構想は「都」構想となっていますが、そもそも都にはならないという話です。この名前自体が如何わしく、誤解を与えます。大阪市と大阪府を一体化して、東京のように東京都になれば東京並みの発展が出来るという印象を持たせるため、大阪都構想となっているのです。けれども、現実にならないうとして、大阪都構想となっているのは、大阪市を5つの行政区に分割するものです。それ

以上でもそれ以下でもなく、それだけの話なのです。そして、分割した時に大阪市が持っていた権限を大阪府が吸収し、広域行政として行っていくということになります。どういう事かと言うと、今の大阪市が持っている権限と財源が大阪府の方に吸収されるので、府県並に持っていた権限と財源が大阪市から吸い上げられます。結局、大阪市内の方は今までよりも随分、自治権に制約を受けることになります。これは紛れもない事実だと思います。そこを大阪市民の方はしっかりとご承知置きを頂きたいです。

そもそも、この大阪都構想の一番の発端となったのは、大阪が地盤沈下をし、経済が悪く東京に大きな差を開けられている状態を何とか解消するため、大阪都を作れば良いのではないかと言う話だったのです。

その時のキーワードは、いわゆる二重行政という言葉です。これも人々を惑わすマジックワードです。「二重行政を排除せよ」と言えば、正しいように皆思うのです。しかし果たしてそれが正しいかどうかは、よく中身を考えないといけないということです。二重行政とは何かと言うと、大阪市内で大阪市が府県並みに権限も財源もあり、大阪市内でしっかりと行政を行っているのに、その上から大阪

府が更にこの屋上屋を重ねるかの如く、行政政策や箱物を作ることです。二重に行っても意味がないのです。その無駄を排除するということが、この大阪都構想の最たる所です。そして、今も二重行政排除と盛んに維新の会と維新の党の皆さま方が仰っています。しかし、そこが全く私には理解ができません。二重行政の排除というのは、いわゆる行政のスリム化・簡素化とずっと言われてきた構造改革論理と非常に良く似ています。この景気で税収が上がらないから、今度は国債を発行したり、市債を発行したりすると借金が増えます。そうすると財政状況が良くないので、財政状況を良くするために、出来るだけ冗費、無駄な経費を削減していきます。これは国、地方関係なくずっと20年間やってきました。

無駄削減という言葉もマジックワードで、そう言われればその通りです。しかし、一見すると正しいことのようにですが、考えてみれば皆が行うとどうなるかという話です。つまり、これは民間も含めてですが、ちょうどバブル経済が終わった時、日本はバブルの時までは非常に右肩上がりで景気が良かったのです。ところがバブルが終わってしまうと、「あれはバブルで、もう二度と日本はこういう繁栄は無いのだ。人口も減るのだ。だから如何にして貧しさに耐える

か」と、正に清貧の思想が流行りました。そして、そもそも投資や新たな行政経費を使ったりすること自体が間違いだという風潮が、民間や公共政策においても随分と言われてきました。そしてその結果何が起こったのかというと、デフレを作り出してしまったのです。

国内でもいわゆるデフレ産業と言われるような、外食でも安い価格を売り物にしたお店がどんどん流行っていきました。当然、給料が安くないとその価格は維持出来ないのですが、世の中は不景気なので、「嫌なら仕事が無いよ」と言われると、その仕事に就かざるを得ません。すると、今度はますます超過勤務にさせられる訳です。ブラック企業、過労死ということが随分問題となりました。民間ではそういう形でどんどんデフレ経済の中でデフレ産業が流行っていきました。

同時に公共政策の方でも、二重行政の排除が叫ばれました。大阪都構想や合併、そして一番分かりやすいのが道州制です。道州制にして、行政経費を4兆円削減するのだということまで言われてきました。しかし、この問題について私はずっと指摘してきました。一見すると、無駄削減は正しいのです。またミクロで見れば、不況の時にムダ削減を行い、財政を良くするのは正しいことです。しかし、

それを皆が同じ方向で動いてしまうと何が起こるでしょうか。正に合成の誤謬というもので全く違う結果になります。経済を良くしようと思って無駄を削減してきたのが、雇用を減らすことになり、結果的に経済そのものを毀損してしまい、デフレを作り上げてしまうのです。これがこの20年間、日本の中で行われてきたことです。そしてその結果、経済が悪くなり税収も落ち込みました。

大阪都構想の二重行政排除を言う時に一番わかりやすい指摘が、大阪市のWTC、それから大阪府のりんくうゲートタワービルです。超高層ビルをお互い競争し合い建てましたが、どちらも無駄であり経営に行き詰まり破綻をし、大きな債務を国民、府民、市民に背負わすことになりました。そしてこれが正に二重行政の最たる無駄の象徴なのだとされています。これもお互いが競い合い、無駄なものを作ったわけではなく、むしろ経済の見通しを全く考えていなかったのです。バブルの時にこれから右肩上がり、どんどん日本の経済が良くなり大阪も良くなるという前提で、そのような施設を作りました。それらが出来上がると、バブルが終わっていました。経済が良くならないので、利用者が少なくなり経営に行き詰まるということです。これは正にバブル経済が、しっかりと経済の先行きを

見なかったことに大きな問題があります。結果的には経済が良くならなければ、何を作っても無駄になってしまいます。ですからもう一度、しっかりと経済を良くすることを前提として、様々な行政を考えていかなければならないのです。

そう考えると大阪都構想というのは、正にデフレモデルです。デフレ時代、出来るだけ無駄削減する政策が正しいように思いましたが、現実に行ってみると全くの方向違いとなります。特に行政サービスは、間違いなく大阪市内で落ちるわけですが、大阪市内の行政サービスが落ちるにも関わらず、どのようにして大阪や大阪市民がこれに賛成していくかが、私には全く理解が出来ないのです。その背景にあるのは恐らく大阪市民の方々が、一体大阪都構想で何がどうなるのかを具体的に頭の中で良く理解されていないことです。むしろ大阪都という名前に騙され、大阪都にした方が良いのではないかと考えているのです。ですから、呼び方を大阪市解体構想と言ってしまうと、誰も賛成しないでしょう。現在維新の会が行っているいわゆる大阪都構想は、大阪市解体構想です。それ以上でもそれ以下でもない訳です。ここで反対票を投じなければ、本当に大阪市、大阪は潰れてしまいます。

そのことに一早く気が付いたのは、堺市民、堺市長なのです。元々、大阪都構想にこの方々も賛成でした。というのは元々、維新の会や維新の党が言っていたのは堺市、大阪、そして周辺の市町村を集め、現在は260万人しか大阪市にはいませんが、それを倍以上の人口にしていくことでした。そうすると都市の集積がかなりできるようになります。面積も現在の大阪市は、大阪府全体の10%程度で、非常に小さな限られた部分でしかないわけです。これに周辺を足すことにより、かなり大きな面積で一体となった都市計画をしようではないかということでした。そのような意味で言うと、大阪都構想ではなく、大大阪市構想です。つまり、大阪市が周辺の市町村を合併して、政令市として大きな権限をこの大大阪市で使っていく方が私は良かったと思います。そのような構想なら、私も賛成をしたいと思うのです。ところが今回の都構想は、折角の政令指定都市である大阪市を分割していくものであり、堺市もそのことに気がつきました。堺市もようやく政令指定都市となり、府県並みの権限と財源を貰って行くことになったのに、ここで特別区に再編されてしまうと、今までの権限と財源も無くなってしまいます。これでは堺の人にプラスは無いのではないかということで、竹山市長はこの中に入るこ

とを辞めたのです。そしてその結果、周辺の市町村も一緒に入ると
いう話は消えてしまいました。

結局、橋下さんが行おうとしている大阪都構想は、大阪市を5つ
に分けるだけであり、その分けられた5つの行政区は現在大阪市が
持っている権限や財源は無くなってしまいます。それを何故、大阪
市民が賛成するのか、堺市民はもう既にこのような事は自分達のプ
ラスにならないと言って辞めたものであるのに、なぜ賛成しようと
しているのかが本当に理解出来ません。大阪市民もそのことを分か
っていないと思うのです。ですから、是非目覚めて頂きたいと思
います。

私は自分の **Show you** という機関紙にも、このことをもう少し丁寧
に文章にして書いております。間もなく私の会員である **Show you**
友の会の会員方々には、この機関紙が届きます。インターネット上
でも、この文章を私のホームページの **Show you** という機関誌で公
開をしたいと思えます。ぜひこちらもお読みになって、大阪市民に
知らせて頂きたいです。本当に大阪市がきちんと判断をしないと大
阪が無くなります。そして大阪の核が無くなってしまうと、これは
周辺市町村もとんでもない被害を受けます。我々、京都もその一人

なのです。大阪市が無くなり、大阪の活力が削がれていくことによって、周りにもはた迷惑になるのです。ですから、間違っても大阪都構想に賛成しないように皆様には是非ご理解を頂きたいと思います。またこの問題の解説をしたいと思います。

本日も御覧頂き、ありがとうございました。